

いまいき

11



言い訳しない生き方

あくまでも私自身の考えですが、いちばん見苦しいのは言い訳をした、自分に気づいていない時ではないかと思うのです。

また、他人に責任を転嫁する発言をしてしまうほど恥ずかしいことはありませんよね。

「あの人がこう言ったから」などとやってしまうことです。

しかし、人間は弱いものですので何か問題に直面した時に悪者になりたくない…でも自分で正直に認めてしまうと人間関係を失ってしまうのが怖いし、

周りから、ダメなやつだと認識されてしまうことに恐怖を感じる。こんな時に、選択を誤ってしまい、つまらない言い訳をしてしまうのですね。

同時に、もし自分が気づかないまま同じ人に会って、平気な顔で話をしていたとしたら、それに相手が言い訳しているなど感じていたら…。

そんなことを考えると、恐ろしくなってしまうすよね。

それから、言い訳は全て自己中心的な考えですが、特に自分のことしか考えていない言い訳としては、人に迷惑が掛かってしまった時に「そんなつもりではなかった」という言葉ではないでしょうか？

この時は、自分に悪気があった訳ではないということ、相手に理解してもらいたい一心で使ってしまうのですが、実は自分をかばうことばかりに一生懸命になって、迷惑を掛けてしまった相手のことを何にも考えていない状態になってしまっているのですね。

このような状態に気づかないでいつまでも居ると、どんどん人間関係を失ってしまうことになります。

もちろん多くの人は、このような苦い経験を経て言い訳するよりも素直に話をする方がスッキリとするということに気づいていき、言い訳の数が減っていくものですね。

生きる事がとても重要ですね。

そしてもっと大切なことは、言い訳をせずに正直に生きて行けば、どんな人にも好印象を与え、自分の周りに正直な人が集まって来て良い人間関係が広がっていき、周りの人たちによって自分自身が大きく成長していきけるという事です。

このような良好な人間関係は、人が生きていく上において、食べ物や酸素と同じ位、必要要素だと私は思っています。

私も皆様のお陰でコラムを書かせて頂くことが、自分自身にも言い聞かせる良い機会を与えてもらっていることだと思いい、感謝しております。

よしだ たいち
吉田太一
1964年大阪市生まれ。調理師、引越運送業を経て、2002年、遺品整理のサポートの必要性を感じ、日本初の「遺品整理専門会社キーパーズ」設立。著書は「遺品整理屋は見た!」「遺品整理屋は見た!! 天国へのお引越しのお手伝い」「孤立死 あなたは大丈夫ですか?」(いずれも扶桑社)など多数。